

## 和歌山県名匠

---

# わ だ とし はる 和 田 年 晴

### ■経歴及び業績

昭和20年、県立和歌山商業学校を卒業後、家業の和田漆器店に入り、昭和52年、父の死後同漆器店を継ぎ、現在に至る。

40有余年の長きにわたり、伝統的漆塗技法である花塗の技法を守り続けている。

花塗（塗立ともいう。）は黒江塗の特徴で、呂色塗とは違い、工程中研磨することなく塗り放して仕上げる技法で、塗面の張り、刷毛目などがなく、しかも塵埃が付着しないよう細心の注意が要求される非常に高度な技術である。和田氏は黒江の漆塗師の頂点に立ち、その製品の完成度は他の追随を許さないとされている。

氏の製品は、広蓋、賞状盆、切手盆等の盆類、文庫、硯箱などが主で、ほとんどが京都の問屋におろされている。

全国漆器展・伝統的工芸品産業振興協会会長賞（昭和59年度）、全国漆器展・和歌山県知事賞（昭和56年度、57年度、62年度）、全国伝統的工芸品展・奨励賞（昭和56年度、57年度、平成2年度）など数多く受賞している。

昭和63年、伝統工芸士（伝統的工芸品産業振興協会）に認定されている。



職 種 漆塗師